2025年度香川県・東京藝術大学連携事業

香川県・東京藝術大学・香川大学 瀬戸内海分校プロジェクト

Kagawa_ArtS U18 “かがわアートスタディーズU18”

第4回

Junior High school × High school × University

Research ——→ Workshop ——→ Exhibition

Kagawa × Tokyo University of the Arts 2025

The ocean loves people 海は人を愛する

展

令和7年 12月17日(水) ー 令和8年 1月12日(月・祝)

9時30分ー17時

＊12月17日は12時より一般公開

休館日：月曜日（祝休日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入場無料

高松市美術館 M2展示ロビー

「じぶんとうみ」ロゴ／U18ロゴ画：日比野 克彦

KAGAWA ArtS U-18

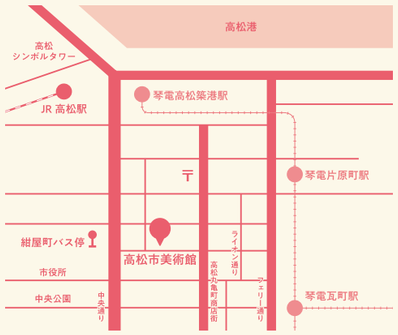
Artist mentor : Saho Shibata & Ayumi Kanno & Nao Nishihara

The ocean loves people

Kagawa_ArtS U18

「じぶん」の中に「うみ」がある。
いのちを育む「うみ」がある、
今とつながる「うみ」がある、
波間に揺れる「うみ」がある、
寄せては引いての「うみ」がある、
深くて光とどかぬ「うみ」がある、
水平線の向こうを見つめる「うみ」がある、
「じぶん」は「うみ」から生まれ「うみ」を学び
「じぶん」を知る。

東京藝術大学長 日比野 克彦



高松市美術館　M2 展示ロビー

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4

www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu

- JR：高松駅下車、徒歩約約15分
- ことでん：瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
- 路線バス：紺屋町または丸亀町参番街下車、徒歩約3分
- 高速バス：県庁通り下車、徒歩約8分
- 空港リムジンバス：兵庫町下車、徒歩約4分
- 駐車場：美術館地下に公営駐車場（有料、乗用車144台収容）

＊駐車場の混雑状況については「どこ駐車ナビ高松」で確認いただけます。

香川県・東京藝術大学連携事業とは

香川県では、平成13年度から東京藝術大学と連携し、地域の文化芸術を担う人材の育成や地域の活性化につなげるため、県内各所で現代美術の作品制作・展示やワークショップを展開してきました。また、平成30年には都道府県レベルでは初となる連携協定を結び、令和4年度からは香川大学と連携しながら「瀬戸内海分校プロジェクト」を始動するなど、先進的な連携事業の充実に取り組んでいます。令和7年度から美術以外のアートも含めた意味としてのArtSの言葉を用いKAGAWA_ArtS U18のタイトルが加わりました。

主催：香川県、東京藝術大学、香川大学　共催：高松市美術館
総合監修・事業代表者：東京藝術大学長・芸術未来研究場長 日比野 克彦
【企画・運営・講師】東京藝術大学 美術学部長・芸術未来研究場 瀬戸内海分校プロジェクトリーダー 橋本 和幸／東京藝術大学 美術学部 教授 西村 雄輔／東京藝術大学 芸術未来研究場 特任准教授 中山 開、井上 裕史、／東京藝術大学 芸術未来研究場 特任助教 新妻 葉子／香川大学 創造工学部 講師 柴田 悠基／香川大学 イノベーションデザイン研究所 特命助教 三谷 なずな、間瀬 朋成
【特別講師】香川大学 農学部 教授 一見 和彦／香川大学 瀬戸内圏研究センター 特命助教 中國 正寿／香川大学 瀬戸内圏研究センター 技術職員 岸本 浩二／香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 特任教授 特別講師 長谷川 修一／瀬戸内海歴史民俗資料館 館長 松岡 明子／瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員（前館長）田井 静明／瀬戸内海歴史民俗資料館 主任文化財専門員（兼）主任専門学芸員 長井 博志／五色台少年自然センター 専門職員 佐藤 隼斗／けいの里オーナー 香川県資源研究所理事 前田 宗一／県立ミュージアム 主任専門職員 地下 浩文／県立ミュージアム 主任専門学芸員 高木 敬子／株式会社ヨンプラス 代表取締役・ボードゲームデザイナー 橋口 剛志

J-PEAKS 東京藝術大学と香川大学は、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の一環として、創造力と分析力を融合させ、複雑な社会課題に新たな視点からアプローチするプロジェクトを展開しています。心豊かで持続可能な社会の実現を目指していきます。

［お問い合わせ］香川県政策部文化芸術局文化振興課
TEL：087-832-3785【9:00−17:00平日のみ】
FAX：087-806-0238

https://setouchi.ac/

TOKYO GEIDAI　香川大学

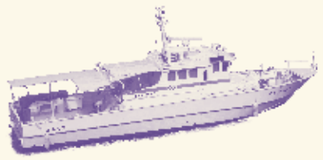
7. 菅野チーム／ゲーム制作の様子
8. アーティスト紹介の様子
9. 西原チーム／サヌカイトのリサーチ
「けいの里」にて
10. 菅野チーム／アニメーション制作
11. 柴田チーム／鋳造ワークショップ
12. 西原チーム／音の観察
13. 芸術未来研究場せとうち

1,2. 公開ワークショップ
「beforeのbefore—見えないものに線をひく」
3. 香川大学の調査船による海洋調査
4. 瀬戸内海歴史民俗資料館のリサーチ
5. 西原チーム／サヌカイトのリサーチ
「けいの里」にて
6. お面を制作するワークショップ

2.

3.

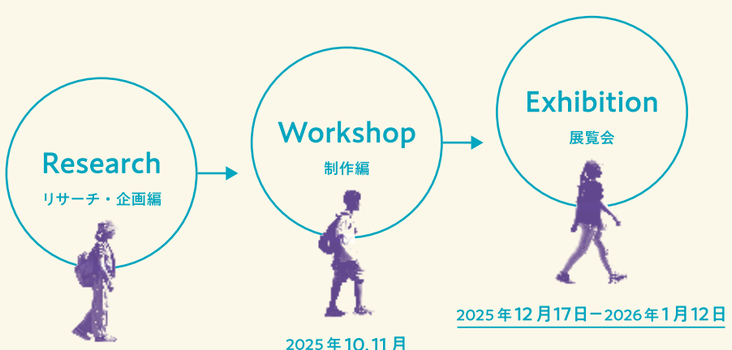
アーティストが中高生・大学生らと共に「じぶん⇄うみ」展をつくりあげます



海洋環境を想う「海は人を愛する」をメインテーマに2022年度から始まった「瀬戸内海分校プロジェクト」は、国内外で活躍しているアーティストと、中学生・高校生らがチームを組み、フィールドワークや作品制作、展覧会の準備開催を行うことで、作品の企画立案から展覧会開催に至るまでの一連の流れを実践的に学ぶプログラムです。

2025年度のサブテーマは「じぶん⇄うみ」
瀬戸内海の環境や文化を「自分ごと」にして、じぶんとうみの関わりを見つめます。

瀬戸内海とそこに暮らす人々について考えを深めながら、展覧会開催までのプロセスをアーティストとともに重ねてきました。その集大成となる「じぶん⇄うみ」展を、高松市美術館で開催します。



舵取りアーティスト

柴田早穂 Saho SHIBATA

瀬戸内海に生きる私たち。
過去から紡がれてきた記憶を受け継ぎ、
いまを未来へと紡いでいきます。
これは、私たちのための、
そしてまだ見ぬ誰かのための
「瀬戸内海のアーカイブ」づくりと、そのプロセスです。

1986年大阪府生まれ。5歳より香川県小豆島で過ごす。富山大学芸術文化学部、東京藝術大学大学院で鋳金を学び、同大学鋳金研究室の教育研究助手を経て、小豆島に「宮の森鋳造工房」を構える。鋳造という技術を介して、土地の記憶や風土、そこに生きる人々のいとなみをうつしとり、過去から現在、そして未来へとつなぐ作品を制作している。素材採取を起点に展開するフィールドワークでは、環境について学び、土地に根ざす声に耳を傾け、地域の人々と協働しながら、その過程そのものをインスタレーションとして提示する。また、小豆島にて「しょうどしま民俗座談会」を立ち上げ、聞き取り集の制作にも取り組んでいる。

菅野歩美 Ayumi KANNO

同じ海の近くで生まれ育っても、
「じぶん」と「うみ」との距離感は生活環境や時代、
社会によって変化します。
活動では、参加者それぞれのリアルな海との距離感を
共有し、過去の人々が築いてきた海との関係を学び、
未来における海との関係を模索しました。

1994年東京都八王子市生まれ。2025年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程（油画）修了。どこの土地にも存在する、土地にまつわる物語や伝説、幽霊譚。フォークロアと呼ばれるそれらは、なぜ人々によって紡がれてきたのか、その背後にある歴史や個人の感情を想像することで生まれる「オルタナティヴ・フォークロア」をドローイングや3DCGを使ったアニメーションによって表現している。主な個展に、「Boring process たいくつな掘削かてい」現代芸術振興財団（東京、2025年）「明日のハロウィン都市 / Halloween Cities of To-Morrow」SACS（東京、2023年）。

西原尚 Nao NISHIHARA

海を見ていると飽きない。
海が私の気持ちを受け止めてくれるのだろうか。
私たちは海に支えられている。
海の幸だけでなく、プランクトンが酸素をつくっている。
海は汚れたものも、きれいなものも受け止めている。
そんな海を、音からも感じている。

音を基軸に、サウンド・アート、パフォーマンス、楽器作り、非常勤講師など活動。音に導かれるまま、物や体や場にも関心の対象を広げる。人がどのように音をきいているのか考えている。知らない人と会いたい、知らない文化や習慣に触れたい、そのために国内外で展示やパフォーマンスを続けているような気がします、とのこと。昨年は、新潟、ベネチア、東京。これまで日本以外では、アルメニア、台湾、NY、ポーランド、ベルリン、ロシア、中国、フランス、釜山、イギリス、ベオグラードなどの地域や国々にて展示やパフォーマンスを行なう。1976年、広島県生まれ。東京藝術大学、東京大学、福山大学、横浜国立大学にて音に関する授業を担当。